

概略評価・パフォーマンスレベルの考え方について

兵庫県薬剤師会 常務理事 住谷 庸子

改訂コアカリにおける実習生の評価について

概略評価

(1)薬学臨床の基礎(臨床における心構え)

生命の尊厳と薬剤師の社会的使命及び社会的責任

(2)処方せんに基づく調剤

処方監査と疑義照会

処方せんに基づく医薬品の調製

患者・来局者対応、情報提供・教育

医薬品の供給と管理

安全管理

(3)薬物療法の実践

患者情報の把握

医薬品情報の収集と評価・活用

薬物療法の問題点の識別と処方設計及び問題解決

薬物療法の効果と副作用モニタリング

実務実習記録(レポート)による評価

(4)チーム医療への参画

医療機関におけるチーム医療

地域におけるチーム医療

(5)地域の保健・医療・福祉への参画

在宅(訪問)医療・介護への参画

プライマリケア、セルフメディケーションの実践

地域保健(公衆衛生・学校薬剤師・啓発活動)への参画

災害医療と薬剤師

今日のお話

1.概略評価とは

2.概略評価をより理解するために

概略評価(ルーブリック評価)

学生が到達している
パフォーマンスの質の基準

アウトカム

患者からの情報収集、情報提供及び患者教育を実践する。

4 優秀	3 良	2 平均的	1 要再学習
患者の薬物療法のアウトカムを達成するために必要な情報を患者から収集する。患者のニーズに判断し、必要な情報を提供し、教育を行う。	医薬品を安全かつ有効に使用するために必要な情報を患者から収集し、教育を行う。	患者から薬物治療に係る基本的な情報(症状、既往歴)を収集し、教育を行う。	患者から薬物治療に係る基本的な情報(症状、既往歴、薬歴、生活状況)を収集し、教育を行う。

評価の利点

- ・学習者と評価者の双方に評価を可視化
- ・同じルーブリックで評価
→結果、プロセスを評価できる

ルーブリック

パフォーマンスを段階的に、多面的に評価するための評価基準を文章で表現したもの

学習者がどの段階にいるのか評価
～ 概略評価 ～

これまでの学習(到達目標型)

GIO, general instructive objective
一般目標。SBOを達成することにより学習者に期待される包括的成果
学習者に期待される具体的行動目標あるいは到達目標

SBO, specific behavioral objective
観察や測定が可能な学習目標
「何々を説明する, 測定する, 行う」

評価

SBOが出来たかを確認する。
段階評価
GIOはSBOの足し算と考える

長所・短所

長所: 何をやって何をやっていないかが明確である。
短所: 全体像が見えにくい。

学習成果基盤型教育

OBE, outcome based education

アウトカム(最終的な成果)の提示
どこまで達成したか確認しながら学習する

評価

アウトカムに対して、どの段階に属するの
かを評価する。
ルーブリック評価

長所・短所

長所: 卒業時にどのようなレベルが要求されるかが明確である。
学生自身が自分のレベルがどこに属するのかが解りやすい。
短所: これまでの習慣から理解し難い。

アンケート結果調査(受入薬局)から

概略評価について

- ・薬物療法の実践(処方設計と薬物療法)…あまり出来なかった 3割!
- ・評価表の文言が抽象的で評価しにくい
- ・一部はできていても、一部はできていない場合など評価しにくい
- ・パフォーマンスレベルの「すべての」という表現の解釈!

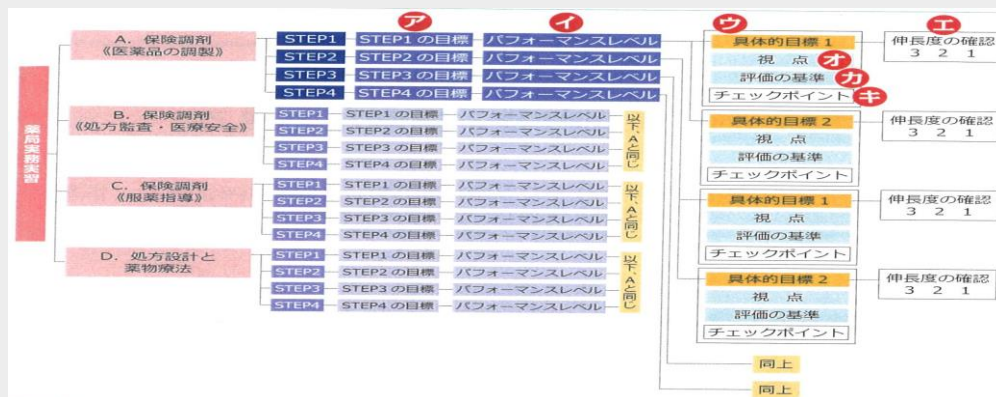
具体的な
パフォーマンスレベル例

第2→3段階?

評価者としての
視点の育成

段階決定のポイントは何か知りたい

薬局実務実習指導手引きの使い方・構成について



- ア** 目標
- イ** パフォーマンスレベル
- ウ** 具体的 目標
- エ** 伸長度の確認
- オ** 視 点
- カ** 評価の基準
- キ** チェックポイント

「領域A」「STEP2」の例

A 保険調剤ができる《医薬品の調製》

STEP 2

A-STEP 2

1 目標
工夫が必要な調製・調剤ができる

2 パフォーマンスレベル
一般的な計数・計量調剤や調剤上の工夫等の対応ができている。また、医薬品の性質を理解し、薬局の管理手順に従い供給・管理ができている。

3 具体的目標

- 1 実習施設内で扱うすべての処方箋についてある程度スムーズな流れで計数・計量調剤ができる。
- 2 緊急時を含めて、医薬品を適切に供給し、麻薬・向精神薬等についても正しく保管できる。

- ①「STEP ○の目標」**
- 各STEPにおいて実習生が目指す目標です。
 - 以下の②「パフォーマンスレベル」は「できている状態」で表しています。そのため本書では、目標の語尾を「～できる」の表現で統一しています。
- ②「パフォーマンスレベル」**
- 各STEPの目標をより具体的に、行動（パフォーマンス）の状態（レベル）として表したもので、複数の要素から構成されています。
 - 実習開始前に、ステップアップの過程をこのパフォーマンスレベルで実習生に提示

1 「STEP 目標」
実習生が目指す目標

2 「パフォーマンスレベル」
目標をより具体的に、
行動（パフォーマンス）の状態（レベル）として表現

3 「具体的な目標」
パフォーマンスを具体化したもの

実習施設内で扱うすべての処方箋について
ある程度スムーズな流れで計数・計量調剤ができる。

常にアドバイスを
受けて対応している

評価の基準：すべての処方箋に対して流れに沿って調剤を行うことができていますか。

- ・業務手順書を確認しながら一連の調製ができる。
- ・薬歴に記録された内容を参照し、それに応じた調製ができる。
- ・処方箋の指示により一包化・粉碎等の調製ができる。
- ・計量混合の可否を適正に判断し、実施できる。
- ・5種類以上の医薬品で構成される処方について調製できる。等

一連の調剤業務全般を円滑に実施できるようになる。技術面についても繰り返し実施することを目指す。

実習の例示

STEP1より複雑な処方箋(一包化、粉碎、散剤・軟膏剤の計量混合を含む)を用いて、薬歴を確認しながら実習の調剤を行う。なるべく基本的な処方箋を選択する。

9 [資料]改訂モデル・コアカリキュラム(「F薬学臨床」)のSBOs

SBOs933	主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)
SBOs934	適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)

9 「改訂モデル・コアカリキュラムのSB0s」

薬物療法の効果と副作用モニタリング	様々なモニタリング項目から患者状態を適切に評価し、薬物療法の効果と副作用モニタリングを実践する。	薬物療法に関する経過モニタリングを基に患者の状況を総合的に評価して、処方設計や問題解決につながる。副作用を軽減化の対策を検討すると共に、副作用報告などの主体的な行動を取る。	評価した患者の状態に応じ、処方設計や問題解決につながる。副作用を確認した場合は、副作用を軽減化の対策を検討すると共に、副作用報告などの主体的な行動を取る。	有効性、安全性のモニタリングに必要な指標を継続的にモニタリングし、患者の状態を評価する。評価結果は、適切にカルテや薬歴などに記録する。	代表的な疾患を有する患者のケアに関わり、薬物療法の有効性、安全性を評価する指標を適切に指導する。患者の状態をモニタリングするためのツールとして、臨床検査値の継続的な確認をする。
-------------------	--	--	---	---	--

概略評価について

処方設計と薬物療法の実践

薬物療法における効果と副作用評価

概略評価表(例示)

観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
薬物療法の効果と副作用モニタリング	様々なモニタリング項目から患者状態を適切に評価し、薬物療法の効果と副作用モニタリングを実践する。	薬物療法に関する経過モニタリングを基に患者の状況を総合的に評価して、処方設計や問題解決につなげ、薬物療法のPDCAサイクルを効果的に回し、薬物療法の質の向上に貢献する。	評価した患者の状態に応じ、処方設計や問題解決につなげる。副作用を確認した場合は、副作用軽減化の対策を検討すると共に、副作用報告などの主体的な行動を取る。	有効性、安全性のモニタリングに必要な指標を継続的にモニタリングし、患者の状態を評価する。評価結果は、適切にカルテや薬歴などに記録する。	代表的な疾患を有する患者のケアに関わり、薬物療法の有効性、安全性を評価する指標を適切に指摘する。患者の状態をモニタリングするためのツールとして、臨床検査値の継続的な確認をする。

Step2

訴えから状態推測、提供すべき必要な情報がわかる。学生の能力に応じた患者に対して継続して指導。処方内容、患者情報を分析し、状況に合わせた薬情の作成ができる。薬情を利用して服薬指導を行う。

Step3

モニタリングすべき項目の抽出(併用禁忌・注意)、アドヒアランスに関する問題点、副作用早期発見(PDCAサイクル)、患者説明・薬歴記録、検査値等から効果確認と解析

Step4

副作用発現の有無、必要に応じた対応、医師への情報提供と処方提案、処方変更後の患者の服薬管理

Step4

薬物治療の経過に応じた対応ができる

Step3

薬物治療に関する基本的な評価と提案ができる

Step2

医薬品情報と患者情報を合わせた解析ができる

概略評価について

処方設計と薬物療法の実践

処方設計と提案

概略評価表(例示)

観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
薬物療法の問題点の識別と処方設計及び問題解決	薬物療法の問題点の評価に基づき、問題解決策を提案、実践し、薬物療法を個別最適化する ※薬物療法の問題点の評価は、(3)①患者情報の把握及び②医薬品情報の収集と活用に基づく	薬物療法や生活習慣の問題点を重要性や緊急性を考慮して適切に識別し、現状評価を正確に行う。 当該ケースにおける最善の解決策を見極め、提案する。論理的で実行可能な解決策を実行に移し、その結果を評価する。	薬物療法の問題点を主体的に識別する。問題点の現状評価を明確に行い、処方設計や他の解決策について検討し、論理的で実行可能な解決策を明示し、薬物療法の個別最適化を実践する。	常に、有効性、安全性、経済性の観点から問題点の識別と現状評価を行う努力をする。処方設計を含めた解決策について、主体的に検討し、当該ケースの薬物療法の個別最適化に努める。	薬物療法の有効性、アドヒアランス不良や腎機能低下時の投与量などの基本的な安全性の問題点を識別し、現状評価を行い、必要な処方設計を行う。

Step2

処方内容・患者からの情報を抽出し服薬指導に必要な情報に加工できる。処方内容の妥当性を科学的根拠(治療ガイドライン等)を基に評価。代替処方を立案できる。

Step3

薬物治療上の問題点を正確に抽出・解析し、問題点の対応策を提案できる。薬物治療の効果に関する継続的な管理(薬歴に次の計画、指導内容・検討事項を記載)臨床検査値から治療の効果や安全性を確認

Step4

効果・副作用発現を確認し、患者の治療上の問題点に対して具体的な対応策を提案できる。問題点の解決策を医師に提案。服薬上の問題点や経過情報の要点を整理・薬歴に記載

Step4

薬物治療の経過に応じた対応ができる

Step3

薬物治療に関する基本的な評価と提案ができる

Step2

医薬品情報や患者情報から治療の問題点を認識する

観点	アウトカム	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
薬物療法の 問題点の識別と処方設計及び問題点	薬物療法の問題点の評価に基づき、問題解決策を提案、実践し、薬物療法を個別最適化する	施設間連携 医師への処方提案 (問題点・対応策) 処方変更後の 服薬管理	患者情報から 処方提案 薬物治療継続的 管理	患者情報の把握 薬情利用の服薬指導 医薬品の適正使用 代替処方立案	患者情報から 問題点に気づく 情報の活用
		理想像・見本 本物の薬剤師	指導薬剤師がいなくても 自分ができる	指導薬剤師の元、 おおまかな業務 ができる	やってみる

まとめ

各段階での明確な判断基準を示す(行動の具体化)

指導薬剤師間で共通の認識を確認

定期的に「概略評価」をして成長度合いを実習生と再確認